

緊急報告 GAP審査の現場からレポート

～岩木山麓(有)片山りんご園

去る8月1日、本州最北端青森県岩木山麓、弘前市にある(有)片山りんご園には早朝から緊張が走っていた。同園は、数年前のりんご価格の暴落を機に海外への販売を手がけ、いち早くヨーロッパ適正農業規範であるEUREPGAPを取得した日本唯一のりんご園である。本年は、審査初年度から4回目(昨年度9月中旬)の継続審査になるが、その審査に立ち会う機会を得た。日本でも整備されつつある日本版GAP(日本GAP協会 1 設立済。当社も会員)取得の良いお手本となるので、実際の審査内容を1例として簡潔に報告する。

緊張の中 EUREPGAP 継続審査開始

～落とす為の審査に非ず～

政府は、平成19年度に向けた「品目横断的経営所得安定対策の実施要綱」でクロス・コンプライアンスの導入を決めており、今や農業環境規範の遵守が法制化された事は先のジャーナルでもお伝えしている。正にその骨格となるべき制度・仕組みが農業環境規範=所謂適正農業規範の考え方と言える。因みに、適正農業規範で世界をリードするEUでは、既にEU域内全ての生産者に取引条件としてその認証取得を求めている。また、EU内へ農産物を輸出しているすべての生産者にも同様の要件取得が必須となっており、片山社長が認証取得に動かれたのもこの為である。

初回認証審査時以降今回も、リチャード・ブラッドリー氏(2)が審査に訪れているが、今回主審に関しては、日本人である塩田審査員(3)により実施された。農林水産省消費・安全局農産安全管理課法令担当、同安全課、弘前大学、五所川原農林高校、東北農政局青森県農政事務所、改良普及所、近隣りんご農家等総勢40名弱が見守り緊張が走る中、日本GAP協会榎本担当の司会により、午前10時ユーレップギャップ審査が開始された。

ここで重要なのは、ユーレップギャップ認証取得は販売(輸出)の為であるが、実際の販売時に認証取得農産物という宣伝を付して販売する事は禁止されており、所謂販促ツールとしては機能出来ない。万が一、その様な販売場面があれば、認証剥奪も有り得るとの事。即ち、ギャップの基本的考え方は、生産工程がしっかり管理(リスク管理)されているという事を認証するシステム(プロセス)認証であり、生産物(商品)認証ではない、つまり“ブランド”ではないという事である。認証のハードルを無駄に高くするのではなく、生産者のモラル等や生産に対する基本的考え方を一つ一つチェックしていき、生産現場や生産者の考え方が結果的に高い次元になっていく為の手助け...と言えれば分かりやすいかも知れない。落とす為の審査ではないという事が最重要ポイントである。勿論、認証工程の中にはトレーサビリティ資料も1資料として存在しており、これらのコンプライアンスが求められているのは言うまでもない。

午前中は書類審査、午後は園地審査...認証継続で申請に!

ユーレップギャップ審査は、午前と午後に分けられ、夫々書類審査～園地視察3ヶ所、即時質問乃至回答、審査委員会開催、総評という様に進んでいき、審査項目は必須項目47、必要項目98、推奨項目65の計210項目の全てを網羅する。審査結果は、担当審査委員会=審査員の報告を受け本国の審査判定委員会

(次ページへ続く)



書類審査の様子。左：リチャード・ブラッドリー氏
中央：塩田審査員 右：片山社長

(前ページより続く)

が最終的判断を下す。認定されれば約3週間後に認定証発行になるので、9月上旬には認定証が届く予定。今回も審査委員会として認定証継続方針で判定委員会に申請を行う事になった。

農水省も「JGAP」普及に本腰を入れている。ポジティブリスト制度導入の影響で6月の中国野菜の輸入は激減。中国輸入業者は事態を静観しているが、一方では国家指導で「CHINA GAP」の認証が始まった。GAP認定の中国野菜の輸入。これには「JGAPの早期普及が不可欠」との背景があるようだ。次回は、審査内容の詳細を報告予定。

(1)日本GAP協会: <http://jgai.jp> (2)リチャード・ブラッドリー氏: ニュージーランド出身。ニュージーランド農業省アクラ農業研究所、SGSニュージーランド農業部門品質管理マネジャー及び同部門のIS9000審査員。SGSオーガニック及び他の農産物・畜産物の認証プログラムアドバイザー。SGS食品上級審査員として、世界各国でのオーガニックおよび他の食糧、食品審査業務、また講師として審査員のトレーニングを行っており、ヨーロッパ適正農業規範の認定講師。(3)塩田審査委員: 日本に於けるEUREPGAP認証機関(2001年に認定)であるSGSジャパン株式会社社員。

MAC掲示板

人事異動

日付	氏名	新	旧
8/21	加藤 誠二	大阪支店	本店農産部



青森・弘前夏祭り

8月1日、青森県弘前市「ねぶた・祭り」の初日、しだれ桜で有名な弘前公園前に町内単位の「ねぶた」が集合。夜7時に「津軽情張り大太鼓」が先導をとり「ヤーヤドー」の力強い掛け声とともに、囃子を従えた躍動感溢れる48台の「ねぶた」

が市内を練り歩いた。2日目は初日に参加できなかった40数台の「ねぶた」が行進し、3、4日目は合同で町を練り歩き「典雅」を観客に印象づける。世間一般的には「ねぶた」という言葉を耳にするが、正しくは青森市が「ねぶた」、弘前・黒石・五所川原では「ねぶた」と言われ、前者が凱旋記念で猛々しいのに対し、後者は出陣の肅々とした行列だ。三国志や水滸伝などの歴史物を題材にした色鮮やかで且つ勇壮な武者絵(鏡絵)が闇に連なる「扇・ねぶた」。それに対して裏の送り絵は妖艶な美女。その対比が幻想的な美しさを表し、静と動が交じり合う。「剛情張り(ごうじょっぱり)」が底辺にあり、何かにつけ大風呂敷をを広げ夢と現実の狭間に揺れながら結局はやるしかなく、意地をエネルギーに終いにはやり遂げる。「剛(つよい)」「情(じょう)」を張る。これが津軽人を支える気概だそう。津軽藩初代当主津軽為信が、南部藩に先駆けて秀吉の小田原征伐に小田原へ出向き、秀吉から津軽三郡の本領安堵を得た。これが南部藩との長き怨念の戦いの始めと言われている。為信は武勇絶倫、知略縦横の武將で外交戦略にも長け、内政手腕も確かで伊達政宗と並んだ出色の人物と称される。京文化を積極的に取り入れたが、京人を驚愕させた浮き灯籠をつくったのが「ねぶた」の原点という説もある。



扇ねぶた (燈籠)

「津軽じょんがら節」「津軽三味線」のあのリズムカルなテンポの早い唄、心に奥深く染み渡る三味線の音色。「津軽じょんがら節」の名前の由来には2つの説がある。浅瀬石城主 千徳政氏を攻め滅ぼした津軽為信は千徳家の墓所まで暴こうとした。これに怒った菩提寺の僧 常縁は為信を末代まで呪うと言い残して浅瀬石川に身を投じた。そのあたりを上河原(じょうかわら)を読んだこと 僧 常縁(じょうえん)の名前に由来するとの説があるが、怨念の音色・唄なのかもしれない。以上は弘前市から青森空港までの帰路、タクシーの運転手さんから聞いた話。弘前公園のしだれ桜、りんごの木の剪定技術がその美しさを作り上げたと自慢。運転手さんは生粋の津軽人だった。

編集局長: 吉野友隆 アシスタント: 助川尚子

電話: 03-5802-2011/E-mail: journal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>